
～製紙と環境の両輪による成長を目指して～

特種東海製紙グループ 株式会社レックス牧之原工場 竣工のお知らせ

特種東海製紙グループ 株式会社レックス（所在地：静岡県島田市、代表取締役社長：寺井敬雄）は、かねてより建設を進めてまいりました牧之原工場（静岡県牧之原市）を 2025 年 12 月 15 日に竣工いたします。レックスは固形燃料 RPF（Refuse Paper & Plastic Fuel、以下 RPF）の製造を担っており、新工場は金谷工場を移転し、RPF の増産体制を整える拠点として稼働いたします。RPF は、マテリアルリサイクルが困難な古紙や廃プラスチック類を主原料とする高品位固形燃料であり、従来の化石燃料に比べて CO2 削減効果の高い地球環境にやさしいエネルギー資源です。主に当社グループの製紙工場において燃料として活用され、持続可能なものづくりの実現に貢献しています。

レックス牧之原工場の RPF 月間生産能力は従来の金谷工場の約 2 倍となる 2,000 トンを計画しており、既存の島田工場・長泉工場と合わせると、生産能力は従来比約 1.2 倍の月間 6,000 トンに拡大します。また、工場建屋には太陽光発電設備を完備し、年間約 100 トンの CO2 削減を見込んでいます。工場内の重機には電動式油圧ショベルやフォークリフトを導入し、従来のエンジン式と比較して約 65% の CO2 削減効果を達成すると同時に排ガスをゼロにするなど、工場全体で環境負荷低減を図ります。

レックス牧之原工場では、製品のより一層の品質向上と環境に配慮した生産体制を構築し、地域と共に持続可能なものづくりを実現するとともに、製紙事業のエネルギー調達を担う存在として、産業廃棄物を有効活用した RPF 製造事業をさらに強化することで、リサイクルの拡充・拡大を進めてまいります。

現在、特種東海製紙グループでは製紙 3 事業（産業素材・特殊素材・生活商品）に加え、資源再活用や井川社有林の有効活用を環境関連事業として新たなコア事業に位置づけ、事業ポートフォリオの変革を推進しています。レックスが属する資源再活用事業では、廃棄物の外部収集から製紙工場でのエネルギー利用までを一貫して行える体制を構築し、サーマルリサイクルによる差別化を目指すとともに、素材そのものを再生するマテリアルリサイクルへと事業領域を広げています。今後も当社グループは、さらなる経営資源の投入により製紙と環境の両輪による成長を実現し、持続可能な社会の構築に努めてまいります。引き続き当社グループの取り組みにご注目ください。

【牧之原工場の概要】

所在地	静岡県牧之原市坂口 2413 番 1 坂口工業団地内
敷地面積	23,613 m ²
建物延床面積	5,053 m ² （製造工場、原料倉庫、製品倉庫の 3 棟）
RPF 製造設備	破碎機 1 基 成形機 リングダイ方式 2 基 定量供給機 1 基
太陽光発電設備	PPA 方式 建物 3 棟の屋根に設置 予想発電量：373 千 kwh/年
電動重機	油圧ショベル 1 台 フォークリフト 1 台
RPF 生産能力	2,000 トン/月

【牧之原工場パース図】



【RPF 製造設備】



【本件に関するお問合せ】

特種東海製紙株式会社 コーポレートセンター サステナビリティ推進室 Tel.03-5219-1810
株式会社レックス 総務本部 総務部 Tel. 0547-39-3112